

説明書

ワックスフォーム

（歯科矯正実習用ワックス模型材）

【形状・構造等】

種類：5種類

- 1) 正常咬合（N）
- 2) 1級叢生（I）
- 3) 2級1類（Ⅱ-1）
- 4) 2級2類（Ⅱ-2）
- 5) 3級（Ⅲ）

成分：パラフィンワックス、マイクロクリスタリンワックス

【性能、使用目的、効能又は効果】

線矯正装置による歯牙の移動を模型上に再現させ、装置の働き方を観察する目的に使用する矯正実習用のワックスである。

タイポドント（矯正実習用咬合器）、メタルティースとともに使用する。

【物理的性質】

融点：69.2℃

軟化点：55～60℃

【使用目的】

矯正実習

【操作方法又は使用方法等】

- 1) タイポドントのプラスネジをゆるめてベース板をとりはずしておきます。
- 2) ワックスフォームを、37～40℃のお湯に約3分間浸漬し、あたためます。
- 3) あたためたワックスフォームを、上下顎の違いに注意し、タイポドントに装着します。装着後ワックス基底部分の余剰をスパチュラー等で調整してください。
- 4) メタルティースを挿入し、上下顎の咬合関係をチェックします。メタルティースが入れづらい場合は、タイポドントに装着したワックスフォームを再びお湯に漬けて温めてから挿入します。
- 5) その間必要に応じてバンドを合わせ、アタッチメントをとりつけます。
- 6) ワイヤーを入れます。
- 7) 装置を調整しつつ歯牙の移動を観察します。

【使用方法に関連する使用上の注意】

- 1) ワックスフォームは、あたためた状態で、前歯側基底部の方をゆっくりと押しながら、タイポドントに装着すること。臼歯側基底部を押し一気に装着しようとする、ワックスフォームが破損するおそれがあります。また、フォームの基底部ではなく歯頸部側を把持すると、フォームの歯周の形態を崩すおそれがあります。
- 2) 使用に際しては、タイポドントの各部のネジ（高さの固定等）でしっかり固定してから使用すること。
- 3) ベース調整の際は、ベース板のプラスネジをきつく締めすぎないこと。締めすぎると逆にサイド面があいてワックス漏れがおきることがあります。
- 4) ワックスフォームをあたためる際は、お湯を43℃以上にしないこと。ワックスフォームが変色したり、変形するおそれがあります。

【使用上の注意】

1) 使用注意

- ①本材は、火気の近くや高温となる場所（ストーブの側、直射日光の当たる場所など）に放置しないこと。
- ②本材は、適切な換気がなされている場所で使用すること。
- ③他の製品と混用しないこと。
- ④本材は、記載の使用目的以外には使用しないこと。
- ⑤本材は、歯科医療関係者以外には使用しないこと。

2) 重要な基本的注意

- ①本材の使用により発疹などの過敏症状があらわれた場合には、使用を中止し、医師の診断を受けさせること。
- ②本材を加熱する際は、取扱いに注意すること。
溶解した本材は高温であり、火傷の危険性があるため直接素手で触れないこと。万一、火傷を負った場合は冷水で冷やすなど、適切な応急処置を施し、医師の診断を受けさせること。

【貯蔵・保管方法及び使用期間等】

【貯蔵・保管方法】

本材は、直射日光を避けて冷暗所に保管すること。

本材は、歯科の従事者以外が触れないように適切に保管・管理すること。

【包装】

1組（種類別上下顎各1個）

【販売】

株式会社モリタデンタルプロダクツ

電話番号: 0287-29-2221

【問い合わせ窓口】

株式会社JM Ortho

電話番号: 03-5281-4711 Fax 番号: 03-5281-4716